

「みんなが幸せを実感できる

元気なまち「こおり」を目指して



桑折町長 高橋宣博

本町では、平成28年12月に総合計画「献上桃の郷こおり創生プラン」を策定し、町の未来像である「みんなとつながりみんなが活躍できる安心のまち桑折」の実現に向け、鋭意、各種事業に取り組んでまいりました。その結果、基幹事業と位置付けた4つの重点プロジェクトを中心に、各事業が順調に進捗したものの、令和2年からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、コロナ禍がもたらす、新たな社会情勢の変化を見据えた骨太の計画策定が必要となったことから、新総合計画策定期を、令和3年9月に見直しました。

新しく迎えた「令和」の時代は、国の復興・創生期間の終了(2020年)を踏まえ、東日本大震災や原発事故災害からの復興関連事業を整理していく中で、人口減少・超少子高齢社会の到来、自然災害の脅威やICTの飛躍的発展など、多くの課題への対応が求められます。加えて、全世界で猛威を振るうこととなった新型コロナウイルス感染症の拡大により、我が国の住民生活や医療、福祉、教育、産業、経済などさまざまな分野において深刻な問題や課題が顕

在化しており、今後も本町を取り巻く環境は、国内や国際情勢などを背景に、大きく変化していくものと予想されます。

待望の役場新庁舎の完成や相馬福島道路の全線開通など、本町のインフラが充実し、「こおり新時代」の到来を実感できるようになった今、まちづくりは、その先の豊かな未来への展望が描ける大きな転換期に達しています。本総合計画では、このチャンスをしっかり捉え、前計画での取り組み成果を十分に生かしながら、地方創生SDGs(持続可能な開発目標)、デジタル化や脱炭素社会の視点など、確かな未来につながる長期的なテーマについても取組みを推進します。また、コロナ禍など、社会情勢の変化や課題などに着実に対応していけるよう、今後10年間のまちづくりについて、本町の目指すべき姿と進むべき方向性を明らかにし、行政分野ごとに主要施策を体系化するとともに、横断的かつ優先的に取り組む施策を「重点プロジェクト」として掲げ、その先の輝かしい未来に向かって(For the Bright Future)計画の実現を図っていきます。